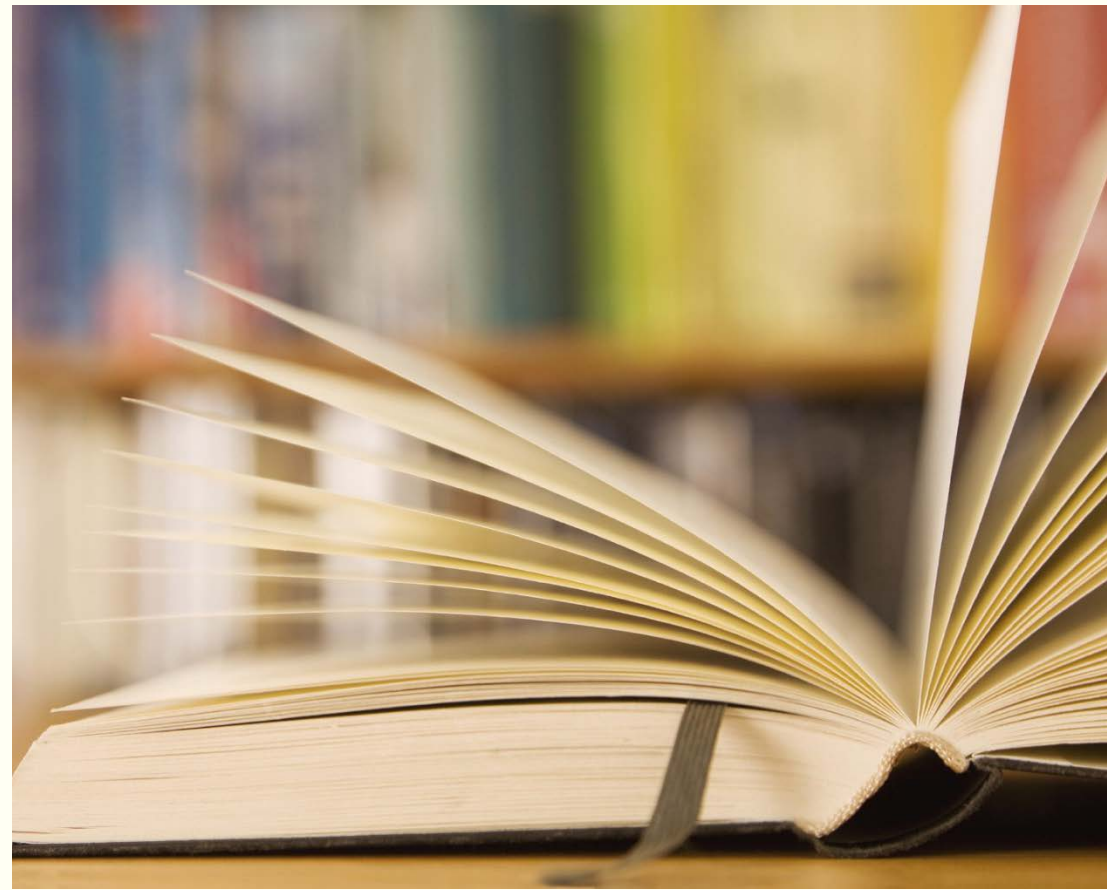


神戸女子大におけるPBL実践

～実践上の課題について～

@PMI教育国際化委員会



神戸女子大学家政学部 貝増 匡俊

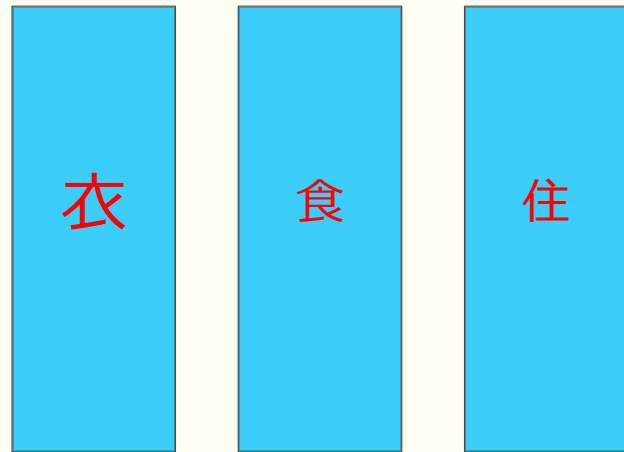
2017年8月9日

Outline

1. なぜ家政学科にPM教育が必要なのか？
2. 関連科目の構成について
3. PBL実施上の課題・問題点についてまとめ
4. (部分的な) 改善への取り組み

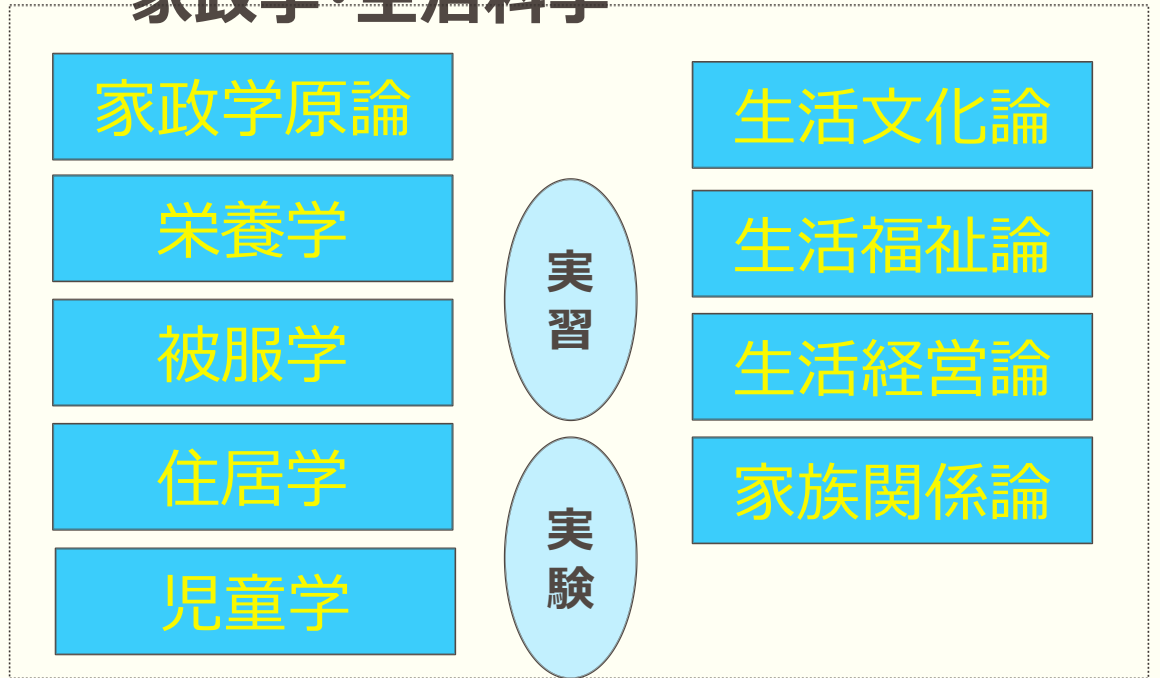
1.1 PM教育の必要性（家政学とは？）

一般的には衣食住を学ぶ



3つのコースの中で生活プロデュースコースはどのような位置付けなのか？

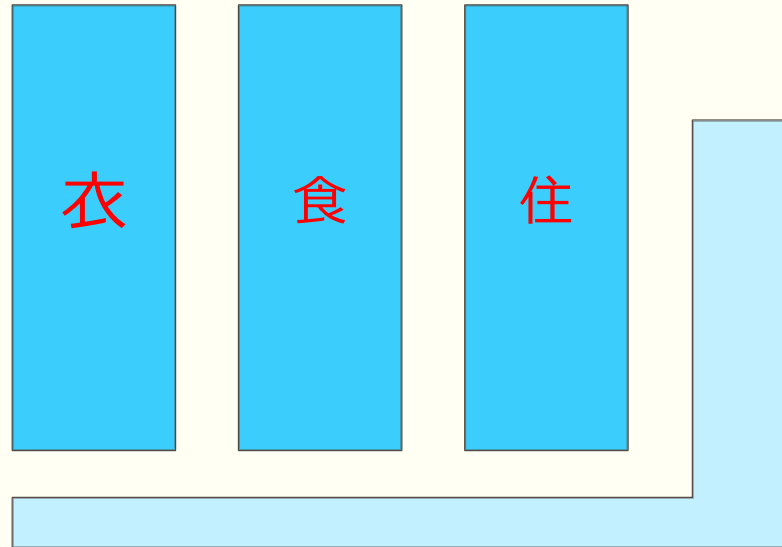
家政学・生活科学



幅広い領域を学ぶ

1.2 PM教育の必要性（生活プロデュースコースの位置づけ）

生活プロデュースコースで学ぶこと



生活の質（QOL）を向上させる

「衣食住の古典的三本柱から多様化が進み、それらの共通実践能力としてプロジェクトマネジメントが必要となり、そのために生活プロデュースコースが設けられている」

2.1 PBL関連科目にかかる構成（抜粋）

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						卒業論文	
情報処理			消費科学				
		統計		社会調査			
		プロジェクト論	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ		

**本学家政学科では演習を通じて、プロジェクト型学習(PBL)の実践を行なっている
準備の講義を含めると2年間の必須コースとなる**

2.2 PBL関連科目にかかる構成（プロジェクト論）

No.	内容
Week 1	オリエンテーション
Week 2-7	プロジェクト・デザイン SWOT分析、デザイン思考など
Week 8 - 14	WBS
	スケジュール
	コミュニケーションマネジメント
	リスクマネジメント
	評価
Week 15	全体振り返り

2.3 PBL関連科目にかかる構成（演習構成）

科目名 実施時期	生活プロジェクト演習Ⅰ 2年次後期	生活プロジェクト演習Ⅱ 3年次前期	生活プロジェクト演習Ⅲ 3年次後期
目的	私たちの身の周りでは、環境問題や地域の課題など様々な課題が存在する。家政学に関連した課題に対して、関連する背景がどのようなものかを文献や現地での聞き取り調査を通して深く理解するとともに課題解決に向けた施策を考える。企画立案の手法などを学ぶとともに与えられた課題に対する理解を深める。	私たちの生活の中には様々な課題が存在する。特に家政学に関連したものであれば、例えば、高齢者などは家庭内の課題であり、また過疎化や限界村と言った地域の課題ともなる。これらの問題のひとつを事例として取り上げ、課題・問題を理解するとともに解決・改善策について考え、関係者を交えて議論を行う。その後、実際にプロジェクトの計画策定を行い、計画書を作成する。一連の活動を通して、事例に関する課題や関連した課題について更に理解を深める。	私たちの生活の中には様々な課題が存在する。特に家政学に関連したものであれば、家庭や地域の課題などを取り上げる。特に、生活プロジェクト演習Ⅰ及びⅡで取り上げてきた課題に対する解決策を具体的に関係者と調整を行いながら、学生が主体となって実施していく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトマネジメントの重要性などを理解する。 調査を行った当該分野に関して分野を俯瞰できる知識を得ることができる。 当該分野で文献や類似的既存プロジェクトに対してクリティカルに評価を行うことができるようになる。 プロジェクトを設計手法の習得が習得できるようになる。 グループワークを行い、数多くの発表／討論の機会があるため、プレゼンテーション能力、質問力、異なる意見をもった人と対話するコミュニケーション力を身に付けることができる。 グループワークを通じて、課題発見力、情報収集・分析力、政策立案能力など学術的、政策的な総合力が身につく。 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた課題に対する理解が深まり、問題が正確に把握され、多角的な分析ができる。 具体的な解決策を複数考えることができるようになり、複眼的な視点から課題を考えることができる。 プロジェクトの目標が設定できるようになる。 プロジェクトの計画立案手法が習得できる。 グループワークを通して、チームワーク、リーダーシップやフォロワーシップ等が求められるため個々の倫理観、責任感などが認識される。 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた課題に対して具体的な解決策を実行する実行力が向上する。 プロジェクトの実施とモニタリングが適切にできるようになる とともに目標設定の重要性に関して理解が進む。 実施したプロジェクトの評価ができ、実施前との比較などもできるようになる。 グループワークを通して、チームワーク、リーダーシップやフォロワーシップ等が求められるため個々の倫理観、責任感などが強化される。
トピック	環境・地域とのつながり・生活経営	働き方（環境・地域とのつながり・生活経営）	働き方（環境・地域とのつながり・生活経営）
成果物	<ul style="list-style-type: none"> レポート（個人） ポスター プロジェクト企画書（グループ） 	<ul style="list-style-type: none"> レポート（個人） プレゼンテーション プロジェクト計画書（グループ単位） 	<ul style="list-style-type: none"> レポート（個人） 実施したプロジェクトで設定した成果物 プロジェクト報告書
技法	<ul style="list-style-type: none"> アイスブレイク コミュニケーションゲーム インプロ シュミレーション（インタビュー方法） マーケティング（ペルソナ・共感マップ） 	<ul style="list-style-type: none"> 問題ツリー SWOT分析 関係者分析 目標の設定方法 スケジューリング 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング
生活プロジェクト論との比較	第1回目～第5回目	第6回～第15回目	同左

2.4 PBL関連科目にかかる構成（ロジックモデル）

科目名	Resources	Activities	Outputs	Outcomes	Impact
生活プロジェクト演習Ⅱ	文献（図書）	文献調査	① レポート（個人） プロセスが明示できる	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題に対する理解が深まり、多角的な分析ができる。（①③②） ・具体的な解決策を複数考えることができるようになり、複眼的な視点から課題を考えることができる。（①③②） ・プロジェクトの目標が設定できるようになる。（③①②） ・プロジェクトの計画立案手法が習得できる。（③①） ・グループワークを通して、チームワーク、リーダーシップやフォローシップ等が求められるため個々の倫理観、責任感などが認識される。（③①） 	<ul style="list-style-type: none"> ・XXX（トピック）について関心を持ち、研究心が高まると共に、常に課題意識を持つようになる。 ・自ら主体的に考える習慣が身につく。 ・主体的に関係者と調整を行って実施可能な計画立案ができるようになる。
	文献（ネット）	グループ作り			
	教員	問題分析プレスト	② プレゼンテーション		
	外部協力者①	関係者分析	③ プロジェクト計画書		
	外部協力者②	フィールドワーク			
	フィールド	問題ツリー作成			
	学生	目的分析			
	グループ	SWOT分析			
		目標の設定			
		関係者との調整			
		計画書の作成			
		スケジュール			
		予算（コスト）			
		品質			
	生活プロジェクト演習Ⅲの準備				

PBLを実施することで、私たちの家庭や地域の課題を発見したり、関連したニーズの発掘を行い、実際の企画能力・計画立案・実施能力を高めていくことを目的にしている

2.5 PBL関連科目にかかる構成（ルーブリック）

課題名：生活プロジェクト演習Ⅱ

Ver. 2.11 (2017年4月26日)

No	評価項目		レベル1 C	レベル2 B	レベル3 A	レベル4 S
# 1	課題発見力及び分析 (ツール)	問題発見	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を発見する前に参考情報として得られた情報がインターネットのみと限られている。 ・現地調査では事前の準備が十分でなかったり、調査での十分な観察ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人が全ての書籍をよむわけではないので、インターネットだけでなく、書籍からも情報を得られる。 ・現地調査では事前の準備や調査での観察がある程度できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本や新聞、ニュースなどの様々な情報源から情報が得られる。 ・現地調査では事前の準備が十分にでき、調査において1つの観点から観察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の情報を結びつけて得られた情報から社会問題と関連づけられる。 ・現地調査では事前の準備が十分にでき、調査において多方面から観察できる。
		分析	<ul style="list-style-type: none"> ・演習で使用した技法がきちんと使われておらず、例えば、問題ツリーでは全体的に結果一原因の関係がわかりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SWOT分析、関係者分析や問題分析等関連性がわかりづらいもの的大まかな問題点を分析できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・（長時間労働もしくは少子高齢化に対して）、課題や問題の分析が分析ツールを使ってできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SWOT分析、関係者分析や問題分析等多面的な分析を行い、関連した課題や問題について関連付けて分析している。
# 2	プレゼンテーション	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担がはっきりせず、準備が十分とは言えず、声の明瞭もはっきりしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担と準備がある程度できる。 ・声が明瞭であったが、早口等で少し聞き取りにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担がしっかりでき、事前準備を十分に行う事でプレゼンテーションに備えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問に対して答えが準備できている。 ・声のトーンや早さが適切に聞き取りやすい。
		レポート (グループ&個人)	<ul style="list-style-type: none"> ・誤字脱字が多く、また引用しないコピーが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察がなく結果のみのレポートになっている。論理構成があまりうまく示されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察が書かれている。図や表を用いたレポートになっており、わかりやすいものになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察だけでなく、図や表を用いたレポートになっている。論理構成はしっかりしていており、改善策や解決策も示されている。
# 3	コミュニケーション	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバー間で必要最小限の会話のみしかできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見は出せたが1つの意見に依存している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を全員が共有でき、積極的に会話できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出た意見に対して、賛否分かれてディスカッションを行い、討論できる。 ・ディスカッションした結果、役割の割り振り各メンバー間の負荷が同じくらいになる。
		個人	<ul style="list-style-type: none"> ・他のメンバーとの議論のみならず、全く発言がない。 ・教員や他のメンバーの話があまり聞いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりが発言しているが、積極的でない。 ・責任感を持って決まったことを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりが意見を出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のメンバーと議論でき、多くの発言をしている。議論が発展している。（ひとりひとりが議論を通して気付きなどを認識する。）
# 4	働き方 (トピック・課題改善)	理解と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・他のメンバーとの議論のみならず、全く理解が進まない。 	<ul style="list-style-type: none"> （長時間労働もしくは少子高齢化）に対して現状等が理解できた。さらに大まかな数字で説明することができる。 ・課題の図書は読了し、要約を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> （長時間労働もしくは少子高齢化）に対して現状等について理解し、関連した課題や問題について分析ができる。さらに現状や問題課題などを詳細に説明することができる。 ・読了した文献と同じグループのメンバーと比較し、読了した文献の評価ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題課題に対してロジカルな分析することができ、そこから根本的な課題や問題を抽出できる。 ・文献リストにある複数の文献を評価することができる。
		提案	<ul style="list-style-type: none"> ・理解できないために分析できなかった。このために提案などができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも一つ提案をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の提案をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案したことが実現すればどのように状況が改善するのか説明することができ、明確な判断基準で優先順位を示すことができる。

3.1 実施上の課題

1. テーマの設定（方法論、家政学どちらを優先）

専門性がより重要と考える教員が多く、プロジェクト演習の実施状況に関して効果が低いと感じる教員がいる。キャリア教育でも同様のことが言える。

2. デザインとPMの要素(学生から見れば企画に対する関心のほうが強い)

PMが暗黙知としての扱いや見方をしているため、PMを形式知としての認識が不足。
現在はデザイン、PMマネジメントを15コマで実施し、演習で実践を行なっている。

3. グループワーク(馴れ合い&表面的なディスカッション)

積極性や自主性が低く、レジリエンスも高いとはいえず、改善が必要。

短時間でまとめる能力はあるが、表面的な議論で終始し、深掘りが難しい。

女子大では積極的に質問や議論を行うことが難しいものの、それぞれの考えは持っている。

今回これまでPBLを実践した中で直面した課題などを分析し、継続的にPBLの質を高めていきたいと考えている

3.2 実施上の課題

4. メンターが不在

グループワークの進め方、気づきやリフレクションを効果的に行うためのメンターが不在。

5. リフレクションのタイミング

全体の構成を考慮し、効果的なリフレクションが実施できるように初期の段階で設計する必要がある。
(進捗状況から計画の変更もあり。)

6. 評価 & 目標セッティング

準備なしに漫然と受講するため、理解を深めたりする点が明確化できない。科目間の関連性がわからない。評価では自己評価が過小や過大な場合の気づきなどができない。

7. 連続性の欠如もしくは教授法の課題

科目間の関連性などは明示しているものの、学生サイドの理解が必ずしも得られていない。論を含め、従来の教授法に課題が依然として残る可能性がある。

4. 改善への取組み（継続中）

1. 全体構成の見直し

目標など明確にすること。各演習での成果物を明示する。やりっぱなしではなく、リフレクションやメタ思考ができるような仕組みを考えること。

2. 取組み課題について

単に企業から課題をもらうのではなく、演習を通して専門的な知識が深められるように課題を設定するようになった。

3. ツールの利用を促進

eポートフォリオの活用（リフレクションや気付きなどを促進するための仕組みやツールの利用を促進する）

4. レビューと改善活動

定期的なレビューを実施し、教科の内容の見直し。テーマの設定（毎年）

ご清聴ありがとうございました。